

ひまひまデータ

数字で遊ぶ
ボートレース

大詰めを迎える級別審査、級別の連続記録や年長記録についてまとめてみました

25年前期（24年5月～10月）の級別審査も終盤を迎えています。4年ほど前にも一度まとめましたが、その後、級別の連続記録や年長記録の上位が塗り替えられつつありそのような状況となってきました。そこで級別の記録をまとめたいと思います。

●A級・A1級連続記録

20年前、「A級」の連続記録上位と言えば、北原友次選手の77連続（1位）や松野寛選手の67連続（2位）が有名でした。3位にはA級継続中のまま引退された新合学選手の64連続。当時3人しかいなかった64以上の連続A級は今（24後期）26人にも増えています。

上位10と、継続中の64～68期連続の選手をまとめました（表1-1）。20年前に2位だった松野寛選手の67は今15位タイで圏外です。

1位は今村豊選手でデビューからずっとA級のまま引退して78期連続A級まで伸ばしました。99年に残した北原友次選手の77期連続の記録を1期分更新しての引退でした。

現在、江口晃生選手が77まで来ています。江口選手はデビュー4期目からA級に上がり一度もB級に落ちていません。今期は勝率6・88で、このまま78期連続A級は確実な状況。今村豊選手に並ぶ歴代1位タイになる予定です。

ところで最優秀新人選手は、82年に今村豊選手が選ばれ、その後3年間、該当なしが続くのですが、86年に選ばれたのが江口選手でした。あの時選ばれた新人選手はその後も活躍を続けて大記録を作ったことにな

なります。

翌年の最優秀新人は熊谷直樹選手（引退）で71期連続A級は5位タイです。単独4位には山川美由紀選手。山川選手もデビュー4期目にA級に上がりその後一度もB級に落ちずに記録が続いています。23年後期で勝率5・59という自身のA級生活でも3番目に低い勝率ということもありましたが、今期勝率（5月～）は7・29で15期ぶりの7点台復帰となるかもしれません。

心配なのは烏野賢太選手。継続中3位で71期連続A級ですが、9月25日時点の勝率は5・42でほぼA2級ボーダー。デビュー2期目に初A級となり3期目は事故率オーバード級でしたが4期目からのこの連続記録が続いています。最終日10月31日の丸亀ナイターで決着するというところもあるのでしょうか。

95年後期から始まったA1/A2級制でのA1級連続記録です（表1-2）。1位はもちろん95年後期から続く選手で59期連続。全てA1級は、10年前まだ13人残っていたのですが今では3人だけ。

A級連続1位タイがかかる江口選手もA級全77期のうち59期はA1級による連続記録です。先述のとおり今期勝率（5月～）が6・88でA級安泰と書きましたが、これは実は江口選手にとって低い方なのです。江口選手は今17期連続の7点以上A1級で、6点台に落ちてしまおうと9年ぶり。それだけ高いレベルで続いているA1級&A級連続記録です。

松井繁選手はデビュー3期目からA級、12期目からA1/A2級制と

なり、その時からA1級が続いています。かなりの実績を残しているながら松井選手はF2が非常に少なく、21年6月・8月で自身2回目となるF2がありました。2本目のF休みだけが次の期にかかって難を乗り越えました。A1級はまだまだ続きそうです。

A1級の出走回数条件が70走から90走に変わったのは11年後期（10年11月～）から。濱野谷憲吾選手は11年後期以降ではF2が3回ありましたが、乗り切ったことになりました。ただ4回目となったF2は今年の3・4月。F休みが期の真真中に90日間（5月27日～8月24日）入っていました。このままでは10走くらい不足しそうで、6日間くらいの一般戦の追加が必要な状況です。A1級連続60期は、江口選手と松井選手だけになってしまいかもれません。

●A級・A1級の年長記録

表2-1はA級の年長ランキングです。上位5のランキングが動きやすい状況となっています。富山弘幸選手の勝率は現在5・38。A2級ボーダーまで0・03です。達成すれば単独の5位となります。適用期間の最終月（25年6月）の21日に67歳となります。67歳でA級の選手は高塚選手以来11年ぶりとなるでしょう。注目です。

A1級の年長ランキングも動きがありそうです（表2-2）。前期（24後期）で山室展弘選手がA1級年長の4位に入ったのですが、同時に西島義則選手も6位に入りました。その西島選手は勝率6・48でこ

表3-1●A級回数上位

| 順位 | 選手名 | A級回数 |
|-----|-------|-------|
| 1位 | 加藤 峻二 | 93 |
| 2位 | 万谷 章 | 84 |
| 3位 | 山室 展弘 | 79 現役 |
| 4位 | 北原 友次 | 78 |
| 4位 | 今村 豊 | 78 |
| 4位 | 北川 幸典 | 78 現役 |
| 7位 | 酒井 忠義 | 77 |
| 7位 | 林 貢 | 77 |
| 7位 | 江口 晃生 | 77 現役 |
| 10位 | 吉田 弘明 | 76 |
| 10位 | 西島 義則 | 76 現役 |

表3-2●A2級回数上位

| 順位 | 選手名 | A2級回数 | 9/25勝率 |
|----|-------|-------|--------|
| 1位 | 菊池 峰晴 | 43 | 5.34 |
| 2位 | 渡辺 豊 | 42 | 5.85 |
| 3位 | 小野寺智洋 | 41 | 5.82 |
| 4位 | 長谷川 充 | 40 | 4.53 |
| 5位 | 渡辺 千草 | 39 | 5.11 |

表3-4●A1級復帰回数

| 順位 | 選手名 | A1級復帰 | 9/25勝率 |
|----|-------|-------|--------|
| 1位 | 渡邊伸太郎 | 14回 | 5.10 |
| 2位 | 間嶋 仁志 | 13回 | 5.10 |
| 2位 | 柴田 光 | 13回 | 現在A1級 |
| 4位 | 平岡 重典 | 12回 | 4.55 |
| 4位 | 大庭 元明 | 12回 | 5.20 |
| 6位 | 今泉 和則 | 11回 | (引退) |
| 6位 | 伊藤 啓三 | 11回 | 6.23 |
| 6位 | 香川 素子 | 11回 | 現在A1級 |
| 6位 | 深井 利寿 | 11回 | 現在A1級 |

表3-3●A2級連続記録

| 順位 | 選手名 | A2級連続 | から | まで |
|----|-------|-------|-----|--------------|
| 1位 | 小野寺智洋 | 35 | 07後 | 継続中 |
| 2位 | 宮内由紀英 | 18 | 02後 | 11前 |
| 2位 | 菊池 峰晴 | 18 | 09前 | 17後 A1級でSTOP |
| 2位 | 松本 博昭 | 18 | 14後 | 23前 A1級でSTOP |

表2-1●A級年長記録(審査期間最終日66歳以上)

| 順位 | 選手名 | 期 | 勝率 | 審査期間 最終日 | 適用期間 最終日 |
|----|-------|-----|------|----------|----------|
| 1位 | 万谷 章 | 11後 | 5.73 | 67歳5か月 | 68歳1か月 |
| 2位 | 万谷 章 | 11前 | 5.63 | 66歳11か月 | 67歳7か月 |
| 3位 | 高塚 清一 | 14前 | 5.36 | 66歳7か月 | 67歳3か月 |
| 4位 | 万谷 章 | 10後 | 5.51 | 66歳5か月 | 67歳1か月 |
| | 富山 弘幸 | 25前 | | (66歳4か月) | (67歳0か月) |
| 5位 | 加藤 峻二 | 08後 | 5.56 | 66歳3か月 | 66歳11か月 |

表2-2●A1級年長記録(審査期間最終日62歳以上)

| 順位 | 選手名 | 期 | 勝率 | 審査期間 最終日 | 適用期間 最終日 |
|----|-------|-----|------|----------|----------|
| 1位 | 加藤 峻二 | 07後 | 6.21 | 65歳3か月 | 65歳11か月 |
| 2位 | 加藤 峻二 | 05後 | 6.21 | 63歳3か月 | 63歳11か月 |
| 3位 | 鈴木 幸夫 | 21前 | 6.53 | 63歳2か月 | 63歳10か月 |
| | 西島 義則 | 25前 | | (63歳0か月) | (63歳8か月) |
| 4位 | 山室 展弘 | 24後 | 6.44 | 62歳10か月 | 63歳6か月 |
| 5位 | 鈴木 幸夫 | 20後 | 6.25 | 62歳8か月 | 63歳4か月 |

グラフ1●A1級キープ率の変化

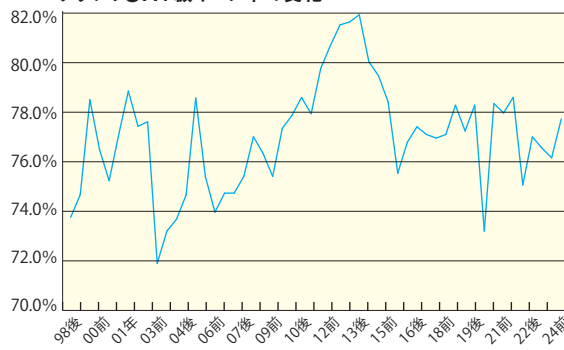


表1-1●連続A級(69以上全員と、68以下は継続中のみ)

| 順位 | 選手名 | から | まで | 連続A級 |
|----|--------|-------|-------|------------|
| 1位 | 今村 豊 | 1982前 | 2020後 | 78 引退でSTOP |
| 2位 | 北原 友次 | 1961後 | 1999後 | 77 STOP |
| 2位 | 江口 晃生 | 1986後 | 継続中 | 77 |
| 4位 | 山川 美由紀 | 1988前 | 継続中 | 74 |
| 5位 | 中村 裕将 | 1985後 | 2020後 | 71 STOP |
| 5位 | 熊谷 直樹 | 1987前 | 2022前 | 71 引退でSTOP |
| 5位 | 西山 昇一 | 1988前 | 2023前 | 71 STOP |
| 5位 | 鳥野 賢太 | 1989後 | 継続中 | 71 |
| 9位 | 加藤 峻二 | 1974後 | 2008後 | 69 STOP |
| 9位 | 三角 哲男 | 1990後 | 継続中 | 69 |
| | 平石 和男 | 1991前 | 継続中 | 68 |
| | 松井 繁 | 1991前 | 継続中 | 68 |
| | 丸尾 義孝 | 1992前 | 継続中 | 66 |
| | 川崎 智幸 | 1992後 | 継続中 | 65 |
| | 市川 哲也 | 1993前 | 継続中 | 64 |
| | 三嵐 誠司 | 1993前 | 継続中 | 64 |

表1-2●連続A1級(50以上)

| 順位 | 選手名 | から | まで | 連続A級 |
|-----|-------|-------|-------|------------|
| 1位 | 江口 晃生 | 1995後 | 継続中 | 59 |
| 1位 | 松井 繁 | 1995後 | 継続中 | 59 |
| 1位 | 渡野谷憲吾 | 1995後 | 継続中 | 59 |
| 4位 | 市川 哲也 | 1995後 | 2024前 | 58 STOP |
| 5位 | 守田 俊介 | 1997前 | 継続中 | 56 |
| 6位 | 三嵐 誠司 | 1995後 | 2022後 | 55 STOP |
| 7位 | 倉谷 和信 | 1995後 | 2021前 | 52 STOP |
| 7位 | 山崎 智也 | 1996後 | 2022前 | 52 引退でSTOP |
| 7位 | 上平 真二 | 1999前 | 継続中 | 52 |
| 10位 | 今村 豊 | 1995後 | 2020後 | 51 引退でSTOP |
| 10位 | 辻 栄蔵 | 1999後 | 継続中 | 51 |
| 12位 | 田中信一郎 | 1995後 | 2020前 | 50 STOP |
| 12位 | 白井 英治 | 2000前 | 継続中 | 50 |
| 12位 | 佐々木康幸 | 2000前 | 継続中 | 50 |

のまま行けば4位となるかもしれない。
 ●様々なA級の記録
 A級回数としては何と言っても加藤峻二選手で93期(表3-1)。最低でも46年半現役を続けないと達成できない記録です。西島選手が25前期A級になるとして77期。加藤選手に届くには、あと16期(8年)連続A級が必要ですから、最短でも71歳となります。
 A2級回数1位は菊池峰晴選手で43期(表3-2)。A1級も10期あります。今期は勝率5・34でA2級勝負駆けの状況です。A2級連続記録と言えは小野寺智洋選手(表3-4)。今期もA2級キープできそうな状況です。達成すれば36期連続(18年連続)となります。
 A1級復帰回数も見ていただきましょう(表3-4)。A1級に返り咲く回数が多い選手のランキングです。渡邊伸太郎選手が14回で1位。2位タイには24後期で13回目のA1級復帰を達成した柴田光選手。結果は残念でしたが先月の三国GII MB大賞では予選1位通過。不遇とも言える昭和46年度生まれの選手のGII以上予選1位は、05年以降の20年間でわずか3件だけ。そのうちの2件が今年で、もう1つは2月・平和島GI関東地区選の一瀬明選手(優出3着)でした。本当に残念でしたがワクワクさせてもらえました。
 久しぶりのA1級復帰では、表3-1のA2級42回の2位でもある渡辺豊選手が24前期で47期ぶりのA1級復帰を果たしています。ここ4

5年で長期のA2級以下からのA1級復帰が多くみられるようになった気がします。今期で言えば、中村真選手が勝率6・00で37期ぶりのA1級復帰に挑戦中です！
 ●A1級キープ率の変化
 A1級だった選手が次の期にA1級のままでいられた割合を、A1級キープ率として期ごとの変化をグラフにしました(グラフ1)。例えば、24前期は323人のA1級選手がいました。その323人のうち次の期もA1級でいられた選手は251人。「24前期」のA1級キープ率は77・7%(=251÷323)となります。
 概ね77%がA1級キープ率の平均値でしょうか。A1級4人のうち3人は次の期もA1級。4人のうち1人はA1級から陥落していることとなります。
 03前期(02年5月)から突然73%前後まで落ち込んでいます。この頃、スタート展示が始まりました。A1級にいた一部の選手にとっては不都合なルールだったのかもしれませんが。
 10年後期から15年前期はともキープ率が高く、安定して同じメンバーがA1級に残っていた感じでした。20年前期(19年5月・10月)だけ一気に73・2%まで落ち込んでいます。一瞬だけでも落ち込んだということ。大きな出来事で、その時入れ替わった選手たちは今もA1級として残り続けているのかも。私にはわかりませんが、調べてみると面白いことがわかるかもしれません。